

三宅島2002年11月24日火山灰の構成粒子について (preliminary report)

三宅島2002年11月24日の降灰試料において、新鮮なガラス質火山灰粒子が認められた。2000年9月以降の降灰試料からは、同種のガラス質火山灰の存在は確認されていない。現在、このガラス質火山灰粒子の起源に関しては、EPMA分析等を行って検討中である。

1. 分析試料

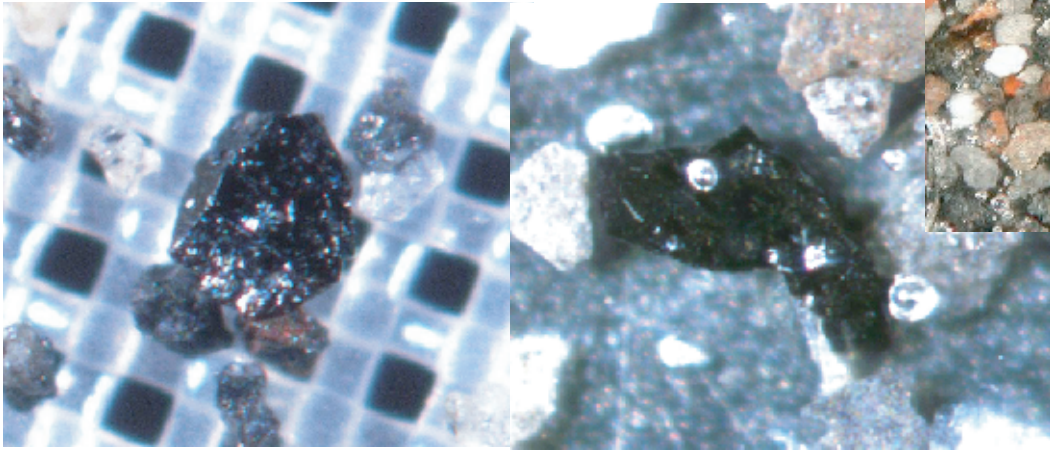
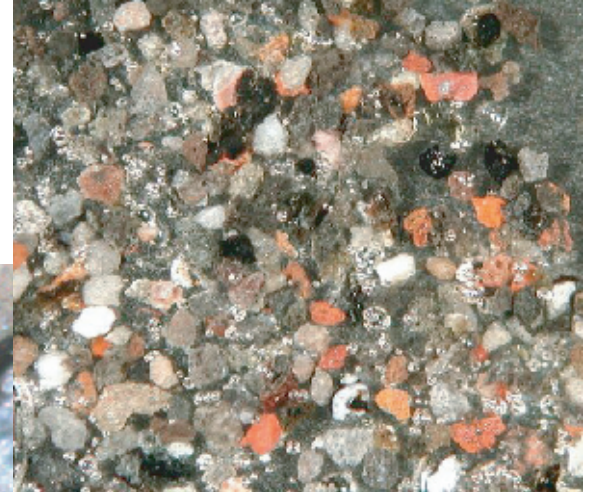
気象庁が採取した、三宅島2002年11月24日13時16分頃に噴出した極細粒火山灰(色調:暗灰色)。試料採取地点は、三宅島南南西部の外周道路(栗辺坂上～薄木バス停の間)。

2. 分析結果

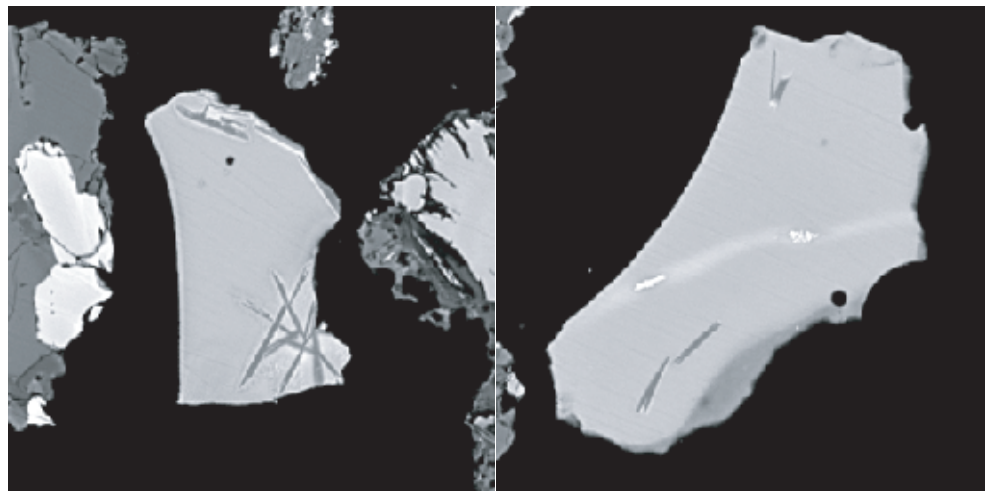
(a) 破片粒子構成物:粒径 $>63\mu\text{m}$ の粒子

粒径 $150\text{--}100\mu\text{m}$ の粒子群において $<5\%$ 以下、粒径 $100\text{--}63\mu\text{m}$ の粒子群において $<10\text{--}5\%$ の割合で、新鮮なガラス質火山灰粒子が含まれる。

ガラス質火山灰粒子は、暗褐色で、ブロック状の形状を呈する。



反射電子像による観察では、伸長した斜長石、単斜輝石微結晶が認められ、急冷・急成長組織を呈する。鉄鉱斑晶は含まれないか、稀である。

(b) 細粒成分:粒径 $<63\mu\text{m}$ の粒子のXRD分析

硬石膏のピークが顕著である。この特徴は、2000年9月以降の細粒火山灰の特徴と大差ない。

